（第３種郵便物承認）

コンがらにも対応可能
産業廃棄物・解体工事の
ご依頼は和幸へ
WAKO
株式会社和幸
ZX1800K導入

CHALLENGE 70
発行所 日報ビジネス 株式会社
Vision Vitality Victory
〈東京〒101−0061 東京都千代田区神田三崎町3−1−5
電話03（3262）3488 FAX03（5214）6633
〈大阪〒541−0054 大阪市中央区南本町1−8−14
電話06（6262）2406 FAX06（6262）2090
発売元 株式会社クリエイト日報 出版部

6月22日 №1776
2026年（令和8年）
週刊 月曜発行
発行人 河村 勝志
平成元年9月22日 第3種郵便物承認
購読料（定価） 年間 26,500円＋税
1部本体 600円＋税

週刊 循環経済新聞
JUNKAN KEIZAI The Recycling Economy Times

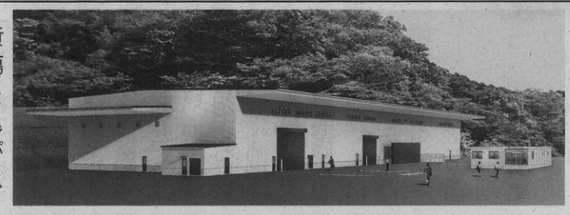
環境将軍R
× MotionBoard

インターネット
日報ホームページ
https://www.nippo.co.jp/
【包装・廃棄物・環境の『製品情報』発信中】

新工場「みらい創生パーク」を建設

8月末竣工、10月操業開始予定

ツネイシカムテックス東広島


新工場イメージパース

常石グループのツネイシカムテックス東広島（広島県東広島市、渡壁省吾社長）は、広島市安佐北区に新工場「みらい創生パーク」を建設する。品質向上や生産体制の強化、既存設備の老朽化対応を目的としたもので、投資額は約20億円（土地代除く）。8月末の竣工、10月の操業開始を予定している。

新工場の敷地面積は2万1681平方㍍で、延床面積は約3500平方㍍。既存工場の用地が限界まで利用されていることから、新たな事業用地を確保し、今後の事業拡大や新規事業展開を見据えて建設を決めた。既存の汚泥事業の拡大に加え、自社によるマテリアルリサイクルやケミカルリサイクルといった新たな取り組みも視野に入れている。

同社はこれまで、産業廃棄物をセメント原燃料や電気炉原料として有効活用する中間処理事業を展開してきた。今回の新工場建設により、十分な作業ヤードと設備を確保し、多様化する顧客ニーズに安定した品質で対応できる体制を整備。事業基盤の一層の強化を図る考えだ。

新工場では、混練造粒機「ペレガイヤー」や圧縮式破砕機「ジョークラッシャー」などを導入し、汚泥事業の処理能力を増強する。特にペレガイヤについては、生産能力を現状比180%まで高める計画で、無機汚泥や高カロリー汚泥、焼却向け汚泥などへの対応力を強化する。汚泥事業では2028年に月間約1700㌧の増産を想定しており、売上ベースで現在の約1・5倍となる見通しだ。

環境対策にも力を入れる。フィルター換気設備やオートシャッター、防液堤による漏洩対策、飛散防止設計の他、雨水の利活用などを採用し、周辺環境への配慮を徹底する。

同社の渡壁社長は、「取引先の多様化に伴い、異なるスペックの製品を並行して扱う必要性が高まっている。新工場によって品質管理体制を強化し、顧客の多様なニーズに安定した品質で応えていく」とコメント。その上で、「セメントリサイクルをめぐる外部環境が急速に変化する中、将来的なリサイクルリサイクルの新たな視野に今回の新礎とし、につなげ

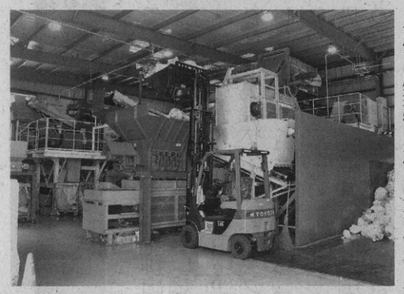
一括回収プラ前処理施設の稼働を開始

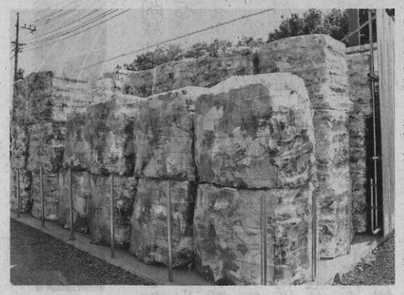
首都圏環境美化センター

家庭系プラの処理に参入

首都圏環境美化センター（東京・足立、斉京由勝社長）はこのたび、2自治体からの委託を受け、家庭から排出された容器包装・製品の一括回収プラスチックの選別・圧縮・梱包の前処理を行う施設を立ち上げた。4月から稼働を開始している。

既存の第5工場をリニューアルし、足立区の一括回収プラの処理ラインを整備。さらに荒川区から受け入れた一括回収プラの前処理を行う第7工場を新設した。同社ではこれまで事業系産業廃棄物の収集運搬と中間処理を中心に事業を展開してきたが、このほど行政回収の廃棄物処理事業に乗り出した形になる。


第7工場の処理ライン


製造したベール

第5工場では、受け入れた廃棄物をホッパーに投入し、破袋機で破袋する。その後、磁力選別や光学選別、手選別によりプラ以外の異物を取り除き、容器包装と製品プラ一括のベールを製造する。完成したベールは指定法人を通じて再商品化事業者によってリサイクルされる。

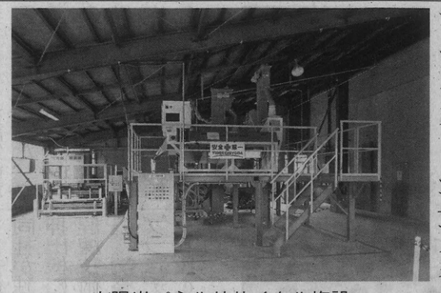
第7工場では、破袋機で破袋後、ロールスクリーンで重量物、軽量物、細粒物の3種に選別する。その後それぞれ手選別したプラップと異なり、最後を経てベ荒川区で環促進法認定ルートを実施し包装のみそれぞれ製造し、者に出荷た今後、類からリ電池（LiすAIロやライン器や散水混入によ

よねざわ工業

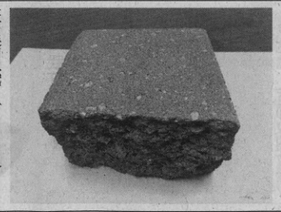
太陽光パネルリサイクル事業を開始

ガラスをコンクリート製品に活用

各種コンクリートブロック製品の製造・販売事業等を展開するよねざわ工業（北海道恵庭市、米澤悟社長、☎0123・32・2221）は、太陽光パネルリサイクル事業を開始した。受け入れた太陽光パネルから資源を回収、選別工程を経たガラスカレットに関しては自社のコンクリートブロック製品の骨材として活用していくことで95%以上のリサイクル率を目指していく。


太陽光パネルリサイクル施設

太陽光パネルリサイクル事業の開始にあたってPVフレームセパレーター（タイガーチヨダ製、処理能力＝400枚／日）、PVリサイクルハンマー（タイガーチヨダ製、処理能力＝240枚／日）、振動異物除去装置（処理能力＝4㌧／日）、循環式風力選別機（日本専機製、処理能力＝4㌧／日）、色彩選別機（DAEWON GSI社製、処理能力＝3・6㌧／日）を新たに導入した。


試作したコンクリートブロックの断面

設備の導入に当たっては北海道の2025年度循環資源利用促進設備整備費補助事業に採択されている。既に産業廃棄物処分業許可を取得し、4月から受入を開始した。

処理の流れとしては、PVフレームセパレーターでアルミフレームと端子ボックスを回収し、PVリサイクルハンマーでガラスカレットとバックシートの破砕・剥離を行う。アルミフレームや端子ボックス、バックシートに関しては外部の資源化ルートを活用し、ガラスカレットに関しては振動異物除去装置と循環式風力選別機、色彩選別機で純度の高いガラスカレットを回収し、同社のコンクリートブロック製品の骨材として活用していく。

同社では来春を目途にインターロッキングブロック製品で骨材としてガラスカレットの活用を進め、北海道認定リサイクル製品としての登録も目指す。2～3年後には他のコンクリート製品でも骨材としてガラスカレットを活用し、95%以上のリサイクル率達成を目指す。2031年には年間300㌧以上のガラスカレットを骨材として活用していく等の目標を掲げている。

ガラスカレットの選別施設と骨材としての活用用途を有しているため、他社（太陽光パネルリサイクル処理・リサイクル施設）から排出されたガラスカレットの受入についても検討しているという。

環境省

PFOS等の「対策技術」

濃度低減へ実証結果を

環境省は6月5日、「PFOS等の濃度低減のための対策技術集」を公表した。PFAS（有機フッ素化合物）のうちPFOSとPFOAの濃度低減に向けた対策技術の知見を充実させるため、昨年実施した実証事業の結果を取りまとめたもの。同実

三和油化工業

三和油化工業は、2026年決算で売億630同期比26業利益が水（最終

廃棄物業界のDXでお悩みの経営者様へ